

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600336		
法人名	有限会社つどい		
事業所名	グループホームつどい花園町		
所在地	〒024-0035 岩手県北上市花園町2丁目2-25		
自己評価作成日	令和7年7月24日	評価結果市町村受理日	令和8年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの要望に応えられるよう心掛けている。 ご自宅で暮らしていた個々の生活に合わないよう支援している。 手作りの食事を提供し、家庭と同様な温かい雰囲気でも過ごしてもらえるように心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR北上駅から徒歩10分程の中心市街地に位置し、ショッピングモールや商店、ホテル、住宅が密集している地域の中にある。近くには散歩やお祭りに出かけることができる諏訪神社や幼稚園、小・中学校、医療機関などもあり、地域内の社会資源に恵まれている。近隣に当事業所を運営している法人の二つの高齢者福祉事業所があり、運営推進会議の合同開催や災害時の協力などで連携を図っている。基本理念を「毎日楽しくほがらかに～笑顔の絶えない思いやりのある家をめざす～」とし、職員は、その実現のための行動指針「心にゆとりを持ち、やさしい声がけ」を心がけて利用者に接し、協力医療機関、訪問看護ステーション等との医療連携体制のもと、利用者一人ひとりのペースに合わせ、利用者が日々ストレスを感じることなく、穏やかに安定した生活を送ることができるよう支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は掲げ、職員一同いつも心掛けている。	開設時からの理念「毎日楽しくほがらかに～笑顔の絶えない思いやりのある家をめざす～」を食堂兼談話ホールに掲示し、行動指針「心にゆとりを持ち、やさしい声がけ」を事務室に掲示して、職員が常に意識できる環境を整えている。月1回の職員会議では、理念に沿った支援が実践できているかを全員で振り返り、支援の質向上につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議へ地域住民(代表者・区長)を招き、2カ月に一度行っている。町内の祭りを見学したり、地域の伝統芸能の慰問を受けている。	町内会に加入しているが、町内会の回覧版は回ってきていない。そのため、運営推進会議のメンバーになっている地域の区長から地域行事の情報を得て、諏訪神社の祭りに出かけたり、文化祭に作品を出展したりしている。また、事業所に諏訪太鼓の団体が慰問に來たり、事業所前に祭りの山車が來たり、地域の人たちとあいさつを交わすなど、地域との交流に努めている。	前回の外部評価でも期待されていましたが、事業所は地域とのつながりを築く取り組みを積極的に行うことが求められます。町内会の回覧版を回してもらうよう要請し、祭り以外の行事にも積極的に参加するとともに、事業所からも認知症ケアの情報提供や相談に応じるお知らせを回覧版に掲載するなど、双方向の交流関係を形成していくことを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流は多少あるが、認知症の負のイメージは払拭されていない。交流を増やし、住民の一員ということ、認知症への理解をしていただけるよう広めていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に一度、開催している。区長にも参加して頂き、地域の取組等の助言も頂いている。	運営推進会議は、事業所の法人が運営する近隣のグループホームと合同で行っている。会議のメンバーは、利用者の家族、地域の区長、地域の住民、市役所長寿介護課の担当職員、訪問看護事業所の職員で構成されている。会議では、利用者の状況、事故報告・ヒヤリハットの報告、感染症対策委員会・身体拘束適正化委員会・虐待防止のための対策委員会からの報告などが議題となっており、委員から質問や意見が活発に出されている。また、地域の区長からは地域の祭りなどの行事情報の提供もある。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2カ月に一度の運営推進会議録に参加して頂いています。助言及び意見をいただいている。	市役所長寿介護課の担当職員が運営推進会議に出席し、情報交換や意見交換をしており、顔の見える関係が構築されている。また、必要に応じ、電話、メールでも情報交換や相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を実施し、職員間での理解している。フィジカルロック・ドラックロックはないが、スピーチロックに関しては、目標を掲げ、日々、言葉遣いの気を付けている。	身体拘束適正化委員会は年に3回、その日勤務の非常勤職員を含む全職員が参加して開催している。身体拘束についての職員勉強会も年3回実施している。玄関は昼間は施錠せずセンサーを使用し、外出しようとする利用者には職員が声をかけて対応している。なお「ちょっと待って」などのスピーチロックが見られるため、「言葉遣いに配慮すること」を目標に掲げ、適切な表現への言い換えを委員会や勉強会で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止のため職員間で日頃から声掛けに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要な利用者様は現在いないが、研修参加したので、今後、施設内勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には丁寧に明るく説明している。即答できない際は時間をいただき回答している。家族様の不安・疑問点も回答している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々生活している中で要望等あればその都度ノートへ書き、職員間での共有をしている。また、面会や運営推進会議への参加で意見を聞き、職員間で共有している。	利用者の要望については、日々の生活の中で聞き出した内容を「利用者申し送りノート」に残している。家族の意見・要望については、把握のための一つの方法として、毎月、利用料請求書を送付する際、居室担当職員が利用者の生活の様子を伝えるお便りを書いて写真とともに同封している。また、家族が通院同行や手続き等で来所した時や電話でやり取りした時に聞いた内容を「連絡ノート」に残している。これらのノートを活用して、利用者と家族の要望等を職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度職員会議を開催し、意見交換を行っている。	管理者は、毎月開催される職員会議の場を通じて、職員の意見や提案を聞くようにしている。職員会議では、例えば、利用者の外出の機会が少ないので外出できる時間帯についての話し合いが行われたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務体制の見直しをし、各自特性を生かし、勤務表作成を行っている。職員間での協力をしあい、モチベーションも維持できるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員それぞれの経験に応じて、利用者に合ったケア方法を共有したり、指導したりしている。研修会の参加は以前より増えてきている。研修を生かした施設内の勉強会開催予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	個々での交流はあるが、施設訪問等を行っていない。 会社内では、他事業所へ手伝いや情報交換を行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前訪問や見学時には、親しみやすい態度・表情で接し、要望等を聴けるよう心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前にお話を聴く機会を作り、不安等を傾聴できるように心掛けている。いつでも相談できるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学、事前訪問・申込時に現在の状況・不安や困っていることを伺っている。また、施設対象でないような場合は、他施設情報を提供し、安心して頂けるよう心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その人らしい生活に生活ができるよう支援している。 (茶わん拭きや洗濯物たたみ、干しなどのお手伝い)			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	申込の際に今までの生活状況を伺っている。 家族様の意向も伺い、受診や外泊の実施など協力のもと支援している。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人等の面会者の受け入れ。 外出の機会を増やすため、外出レクを行っている。外出レクの際には、走行している場所について声を変えながら、景色を見ていただいている。	入居前に家族からの聞き取りを行い、利用者がそれまで親しんできた人や場所について把握に努めている。面会は家族が了解した人のみ受け入れているが、利用者のかつての職場の同僚だった馴染みの人が訪ねて来たり、外出レクに馴染みの場所に出かけたりしている。また、訪問看護の看護師や、訪問理容の理容師が新しい馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	座席の配置について配慮している。 会話困難な場合は職員が間に入り会話を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなり、契約終了した利用者様のご家族はボランティアとして、新聞やチラシで作ったゴミ箱を寄付してくださったり、衣類や靴など頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに意見を伺い対応している。困難な方には日頃の言動等で把握できるよう心掛けている。	言葉では思いや意向を表せない利用者もいるので、選択できる、答えやすい質問をしたり、利用者の表情から「いやだな」という思いや、行動から「外に出たい」という思いを把握するようにしている。把握した利用者の思いや意向は、確認した職員が連絡ノートに記入し、職員間で共有し、利用者の意向に応えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	居室に昔の写真や家族様の写真・家系図などを貼っている。また、入居時に生活歴等を聴くようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃からその人の言動・行動を観察し把握するよう努めている。気づいたことがあれば、ノートや業務日誌に記入するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族はもちろん、必要な際は、主治医や訪問看護ステーションの意見も聞き、職員間で意見交換をし、カンファレンスにてケアプラン作成を行っている。	毎日、居室担当職員が介護計画に基づいて利用者に行った支援の状況をチェック表に記入している。毎月、カンファレンスに参加した職員全員でモニタリングを行い、その内容を計画作成担当の介護支援専門員が確認し、介護計画の原案を作成している。家族には、メールや訪問時に意見を聞き、職員会議にて意見を集約したうえで、最終的な計画として取りまとめている。入居後、利用者の状態が安定している場合の計画見直しは、原則として6か月ごとに実施しているが、状況に応じて見直しの時期を早めることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、申し送り、モニタリング表への記載での共有を行い、ケアプランへの反映をするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の希望に沿えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	少しずつ、地域行事にも参加・見学している。ボランティアの受け入れをもう少し取り入れていこうと思っている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホームつどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している。	適切な医療を受けていただけるよう、身体状況を 把握して家族様との話し合いを設け支援してい る。本人の意向も聞き、状況に応じて訪問診療に 移行している。血圧なども記録を報告している。 なじみの歯科の訪問診療を受けている。	利用者のうち3人は入居前からのかかりつけ医 に継続して通院しており、家族が受診同行してい る。他の利用者は月1回の訪問診療を受診して いるが、皮膚科、整形外科など他科受診の際は 家族が同行している。受診結果の情報は家族と 事業所で共有できている。利用者全員は週1回、 訪問看護師による健康チェックを受けており、健 康管理上の必要な助言や指導をもらっている。1 人の利用者は医療の訪問看護を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している。	不明・不安な点は随時相談し助言をいただい ている。 受診時にも情報共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、又、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院訪問し、状態確認を行っている。 退院後の生活についても退院前に留意点を相談 している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の在り方については入居時にお伺いし ている。時間がたち、気持ち変わっている場合もあ るので定期的に確認するようにしているまた、重 度化した場合は再度話し合いを設けている。本 人や家族の意向に沿えるよう心掛けている。	看取り介護の指針に基づき、入居時に利用者・ 家族に説明し、最期まで安心して穏やかに生活 が営めるよう支援することとしている。入居後も 定期的に利用者・家族の意向を確認し、重度化 や終末期に向けた支援に取り組み、医師と看護 師の訪問医療の連携のもと、看取りにも丁寧 に対応している。今年は一人の看取りを行い、看 取り後には全職員で振り返りの時間を持ち、終 末期の支援の在り方を共に考えている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	火災の訓練を行っている。今後は水害・風害にも対応できるよう訓練していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	緊急時対応マニュアルを作成している。地域との協力については、運営推進会議で提案中。今有事の際のことも考えて行っていきたい。火災通報訓練は年2回行っている。	ハザードマップ上は浸水や土砂災害の警戒区域にはなっていないので、火災と地震を想定した通報と避難訓練を年2回実施している。避難訓練では、利用者は外には出ないが、避難口まで移動する訓練を行っている。前回の外部評価において期待されていた事業継続計画(BCP)は策定済みである。一方、夜間災害時に地域から協力を得る体制については、現在も構築途上であり、今後の課題となっている。	災害時の地域との協力体制の構築については、運営推進会議での意見と協力をいただきながら、具体的な取組みに移行できるよう検討を進めることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々に適した支援をできるよう心掛けている。	職員は、利用者の人格を尊重し、誇りを損ねないように接しており、利用者には「さん」付けで名前を呼んでいる。入浴や排泄などの際にも、利用者の羞恥心への配慮を忘れず、やさしい声がけと丁寧なケアに努めている。居室内にはトイレが設置されており、排泄に関してもプライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話や表情から少しでも読み取れるよう心掛けている。また、行動を選択していただくよう会話でも工夫はしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴日・時間以外は散歩など、個々の希望に沿えるよう対応している。好きな歌番組やスポーツなどTV鑑賞の希望があれば対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装選び。家族様協力のもと、衣替えや衣類の購入をしていただいている。行事レクの際はお化粧も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事レクにて郷土料理や手作りおやつ提供をしている。 簡単な食材の下処理や茶わん拭きも行っていたいっている。	食事は、2名の専任の調理員が利用者の嗜好や摂取状況を考慮し、旬の食材を取り入れながら手作りの食事を提供している。食材は1週間分を業者から購入している。利用者は、下膳や茶わん拭きなどを職員とともにやっている。食事が楽しみなものになるよう、行事レクにはひつつみなどの郷土料理を提供したり、週1回はパン食の日や麺の日としたり、寿司やそばの出前をとったりと、いろいろ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の希望の量、体重の増減、疾病に配慮した量を提供している。 平均水分量を摂取できるよう、種類を増やし飽きないように様々な飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは行えている方行えていない方いるが、就寝時は義歯洗浄、口腔ケアは施行している。必要に応じては訪問歯科の協力も得ている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	水分排泄確認表にて排泄確認、トイレ誘導を行っている。夜間のみ尿取りパットを使用し、日中はできるだけトイレで排泄できるように声かけしたり、それぞれの対応している。	現在の利用者9人中自立してトイレで排泄できるのは1人であり、他の利用者にはトイレでの排泄を可能とするよう、水分排泄確認表により一人ひとりの排泄リズムを把握し、様子を見守りながら声をかけ、トイレに誘導している。日中のおむつ使用者は3人、リハパン使用者は6人であるが、居室にはトイレが設置されており、利用者のプライバシーを確保しながら、状態に合わせて必要な排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、散歩などの運動、乳製品や水分及びバランスの良い食事提供などで自力排便できるよう心掛けている。また、主治医より下剤・整腸剤を処方して頂き、排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯は決めているが、一人で入浴を楽しみたい方には個別で対応している。仲の良い利用者同士で誘い合わせ、入浴の時間を楽しまれている。	入浴は週3回午後1時からの時間帯を原則としているが、希望に応じてシャワー浴については随時対応可能とし、また、長めに入浴したい利用者にはゆっくりと入ってもらっている。広い浴室には車椅子の利用者も入浴可能な特殊浴槽を整備している。入浴剤はあまり使用していないが、冬至の柚子湯など季節の風習も取り入れて、楽しく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	余暇時間や体操の時間帯に声がけはするが、個々の生活習慣に合わせ、休みたい方には強制せず、休んでいただいている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更等の時は職員が共有している。副作用等で変化見られた際は、医療・看護へ相談・報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味レク(読書・ぬり絵・トランプ)や散歩、洗濯干しや茶わん拭き等での役割・気分転換として提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族様との外食・外泊。また、施設では花見や紅葉などのドライブ、外食レク、希望があるときに気分転換に散歩・買い物に出かけている。	以前は近隣のショッピングモールや商店に出かけていたが、最近は、事業所と同じ法人が運営するデイサービスの車を利用して、春のお花見と秋の紅葉狩りにドライブに出かけている。近隣の神社まで散歩に行ったり、コンビニに買い物に行くこともある。家族と通院した帰りに外食する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様からは本人で管理したいという希望はなく、施設で預かっている。買い物の際は、対象者は少ないが、購入時に財布をお渡しし、お支払いされるように声がけをすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様への電話は時間帯にもよるが、希望があれば対応している。現利用者様の中には携帯電話持参されている方もおり、いつでもご家族とお話できるように支援しています。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホームつどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた壁紙装飾、飾り物(花など)。	食堂兼談話ホールと事務室の間には仕切りがなく、広々とした開放感があり、床暖房やエアコン、加湿器が設置され、季節を問わず快適な環境が保たれている。ホールには円形ダイニングテーブルとソファが置かれ、利用者は、大型テレビを楽しんだり、新聞を読んだり、思い思いの時間をゆったりと過ごしている。ホールは、利用者と職員が協力して制作した季節の貼り絵などで飾りつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	本棚設置は、市の図書館からゆずり受けりた本があり、個々で好きな本読んでいる。椅子やソファでゆったりと過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や昔の写真なども持参してもらい飾っている。 使い慣れた寝具を持参されている方もいる。	居室には床暖房、加湿器、ベッド、タンス、洗面台、トイレが備え付けられており、快適に過ごせるよう環境が整えられている。利用者は、自宅での愛用品、馴染みのある小物や思い出の写真などを持ち込み、それぞれが心安らぐ空間となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒防止のため、床にはものを置かず安全に歩行できるようにしている。ご自分の居室がわかるよう、許可を得て、氏名を掲示している。		